

「区における行政への参加の考え方」検討の方向性に関する説明会 区民会議委員経験者からの主な意見（中原区）

1 開催状況

- (1) 日 時 令和2年12月23日(水) 18:30～19:40
- (2) 会 場 中原区役所5階501・502会議室
- (3) 参加者 10名

2 実施概要

1. 開会
井川区政推進課長から挨拶した。
2. 「区における行政への参加の考え方」検討の方向性の説明
配布資料に沿って、説明した。
3. 質疑応答
質問・発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、意見交換した。
4. 閉会

3 意見交換の内容（要旨）

- (1) 総論はこういう形で進めることは良いが、2年の間にどういう方向に走っていくのかの目安がない。

これまでの区民会議で、中原区は、午後に開催されていたが、働いている人が出にくい時間帯だったので、開催時期の問題もあったと思う。

（市民文化局区政推進課）

2年間の試行期間に、何か1つの会議体をずっと持ち運ぶというよりも、それぞれテーマを設定し、それに合った取組をやってみる。固定のメンバーでやって、2年間で成果を出すというより、より多くの人に関わってもらうために、様々なテーマで関わってほしい。テーマをどう展開していくのかを含めて、チャレンジしていきたい。一回一回反省をして、皆さんにもご意見をいただきながら、やっていく。

開催時期については、オンラインや土日開催も含めたやり方にもチャレンジしていきたい。

- (2) 区民会議の反省としては、テーマ設定や運営が市民参加とはいえ、行政主導で進んでいた。

これまでは一定数の人数でやっていたので、全体がある程度見えて、評価ができていたと思うが、色々なパターンでやることになるので、市民側から見て、全体像が見えないので、全体評価ができなくなるのではないか。

扱うテーマによっても違うと思うが、全体を見るような市民がいても良いと思う。

(市民文化局区政推進課)

区民会議は、区ごとによって運営は異なっていたと思うが、中原区は比較的行政からテーマを提示することが多かったと思っている。地域の課題は、地域の人が知っているというのが実情だと思うが、誰がどのようにテーマ設定をするのかという問題があると思う。行政側から提示することもあるだろうし、地域の中から募集することもあり、双方向性が必要だと思う。

どういう軸で評価していくのか、より多くの人に参加していただくことや、意見をどのように実現させていくのか、指標として測れるようにしていきたい。

市民の方に、どの部分にコミットしてもらうか。今の制度設計でいうと、参加の場なので、参加してもらうことになるが、この間、各区で説明させていただき、運営側に市民が入っても良いのではないかという意見もいただいているところである。

(3) 抽象的な話が多く、理解ができなかった。

区民会議は、提言がほとんど実行されなかったところがある。下からすくい上げていって、皆で会議で決めて、それがオーソライズされる。オーソライズされるとそれが実行されるというシステムで、区民会議は良いシステムだったと思う。

(市民文化局区政推進課)

これまでの区民会議は、附属機関という位置付けになっており、枠があったので、ある意味では、わかりやすかった。今回は、抽象的な話が多いという意見が、多数寄せられているので、もっと具体例も示せるようにしていきたい。また、実際に試行してみてもの気づきを、次に活かしながら、考えていきたい。

(4) 区民会議で提案されたものが、行政のところでは、できないと言われたことが多かった。また、提案したことを、行政がどう取り組んでいくかの説明がされていなかった。

行政の方でテーマを提示するのであれば、こういう流れで市民の皆さんに動いていただきたいというテーマの出し方をしてもらわないと、どんなに柔軟な仕組みで意見を伺ったとしても、意見が出ないと思う。

ソーシャルデザインセンターとの連携のイメージがわからない。

市民の力を信じていただくと、上手くいくと思う。

(市民文化局区政推進課)

市民と対話をして進めていくのが、1番大切なことになるので、一緒に取り組んでいきたい。

提案したものが、実現されないというのが、1番達成感を得られないことだと思うので、理由があれば、説明しなければならない。区役所が担当している業務でやりきれない業務と、局と調整が必要なものという中で、どう実現していくか、実現までの道のりが長いものもある。

今までだと区役所の範囲で実現できるものであれば、できたけど、局と調整が必要なものはなかなかできなかつたり、そういうものは、あえてテーマとして選ばないように整理をしていたりしていた。それが、行政側だけでテーマを決めてしまうと、区役所のやれる範囲でのテーマになってしまうが、地域はそういうものではないので、局に関するものについて、どういう風に行政で受け止めて、調整していくかの場を作っていくかは、大きな検討課題である。

(市民文化局協働・連携推進課)

ソーシャルデザインセンターは、会議体を作って議論することではなく、身近な地域での活動を後押しする器(機関)であり、中間支援をイメージしている。まだ、動いていない部分もあるので、理念だけの話になってしまうが、ソーシャルデザインセンターの方とコラボしたり、対話の場のサポートをするようなことが考えられる。別々にやるのではなくて、上手く有機的に連携をしていきたい。

(市民文化局区政推進課)

ソーシャルデザインセンターと行政との関係は、ソーシャルデザインセンターはある意味中立的な、より市民よりの立場のものである。

(5) ソーシャルデザインセンターは、今から立ち上げるのか。

(市民文化局区政推進課)

各区で検討しており、これからである。

(6) その資金はどうなるのか。誰がやるのか。

(市民文化局協働・連携推進課)

先行して、多摩区の方で運用が実施されている。それについては、市民での話し合いの中から、法人化して、市からも補助金という形で、一定の財源を入れながら、運営をしている。実際には、活動支援や子ども食堂の普及啓発、各団体に顔を知ってもらうためのあいさつ回りをしている。

(7) 本当の市民から出た声で、参加の場を作っていくことはできないのか。ソーシャルデザインセンターの人は、長く川崎市に住んでいて、地域の事を知っている人なのか。どういう人がなるのか。

(市民文化局区政推進課)

ソーシャルデザインセンターも、ずっと行政がお金を出すわけではなくて、立ち上げ支援は出すけれど、3年目からは自主運営というような枠組みになっている。

参加の場というのは、意見交換する場を設けていく。それをどう実践していくかを考えた時に、参加していただいた方には、別動隊を作ってやっていくというのもあるが、また立ち上がっていないので、想定の話になってしまうが、ソーシャルデザインセンターが地域のコーディネートをしていたとすると、こういうテーマであれば、こういう人がいるというような連携をし、また、意見交換の結果を踏まえて、地域で実動してみるなど、そういった形での連携を考えている。

- (8) ソーシャルデザインセンターの人は、グループなのか。
(市民文化局区政推進課)
一定のグループや組織が想定される。
(市民文化局協働・連携推進課)
法人としての形になるので、個人という形ではない。公平性などもあるので、公募して入っていただく形である。地域の方に参加してもらうが、必ずしも居住年数が長いとなると人が限られるので、もう少し幅広に新しく来た人だからこそ地域を良くしたいという人もいるので、そうした方を排除するものではない。
- (9) 賛成できない。何でも市民の力でできると思う。お金を出してまでやることではない。
(市民文化局区政推進課)
市民ではない方の力を借りようというわけではなくて、市民の力を結集する機能として、これから地域に入っていき人の相談に乗ったりしていく。中原区にふさわしい形をこれから検討していくことになる。
- (10) ソーシャルデザインセンターの人は信用できない。
(市民文化局区政推進課)
今は実態もないし、もしかしたら、この会議に参加している隣の人がなるかもしれない。
- (11) 市の職員ではできないのか。
(市民文化局協働・連携推進課)
市民活動支援指針の中で、行政が直接的な支援をするのではなく、中間支援組織を通じてという形があるので、行政がやることで、逆に自由度が狭まることもある。
- (12) メリットがあるように思えない。
(市民文化局区政推進課)
ソーシャルデザインセンターの意見交換は、別途させていただきたい。中原区として、ソーシャルデザインセンターが機能しないというのであれば、そういう選択肢もゼロではないと思うので、中原区の中で検討していくことになる。
- (13) 聞けば聞くほど、わからない。NPO法人も会費がなければ活動できない。それを行政が、最初の3年間だけ補助金を出すという話であれば、その後はどうするのか。ボランティアだけでやるのか。誰のためにやるのか。
(市民文化局協働・連携推進課)
最終的には、市民が主体となって、運営することが望ましいと考えている。そうは言っても、いきなり資金を用意できないので、最初は当面行政の方でもサポートさせていただく。また、やりっ放しではなく、都度検証しながら、将来的な自立化を目指している。

(14) ソーシャルデザインセンターというからには、事務を担う人がいると思うが、最初の3年間だけお金を出して、後は自立という考えが、甘いと思う。

区における行政への参加も、只の意見交換会だと思う。そうであつたら、これまでの区民会議のようにテーマを決めて、やる方が成果を出せると思う。その中心に、ソーシャルデザインセンターがあるのが、わからない。

(市民文化局区政推進課)

ソーシャルデザインセンターが参加の場の肝であるということではない。参加の場を単なる意見交換会にしないようしていく。それは、意見を言っていたことを事業として、展開する場合や、市民の皆さんと一緒にやらせていただく場合など、アウトプットをしっかりとやらせていただくことが大切だと思う。ただ、意見を聞いて、ガス抜きをするような場にするつもりはない。

(市民文化局協働・連携推進課)

運営資金の問題は、簡単な問題ではないと思っている。NPO法人でいうと、持続可能性を模索する意味で、クラウドファンディングや応分の参加料をいただくような仕組みも同時並行で考えていかないといけない。

(15) お金が絡んでまでやることなのか。ボランティアで、できることではないか。わざわざお金がない中で、お金を落とすようなものを作らなくて良いと思う。

(市民文化局区政推進課)

その議論は、今後のソーシャルデザインセンター議論に譲りたい。活動資金を生み出していくことは、一方では地域にとって必要なことだと思う。多様な方に参加していただくことは重要であるが、それが絶対ではないと思うので、ソーシャルデザインセンターのあり方については、今後議論させていただきたい。

(16) 地ケアとのマッチングはどうなるのか。

(市民文化局区政推進課)

例えば、地域に保健師が出ていってアウトリーチをやっていく中で、個々の課題であれば、一対一のケアでできるが、それが複数重なった時に、こういう場で議論してやるパターンがあると思うので、地ケアが1つのテーマになると思う。そういった意味では、地域みまもり支援センターの職員にも、こういう場に関わってもらい、やっていくことになる。

(17) 地域包括の対象になる方の掘り起こしは、市民に頼らないといけないと思うので、そういうところをつなげていただきたい。